

令和8年度 米沢市小児インフルエンザ予防接種説明書

予防接種を受ける前に

小児インフルエンザ予防接種は国が定める定期の予防接種ではなく、希望する人が自己負担で接種する任意の予防接種です。この説明書や予診票の内容を十分に確認し、予防接種の効果、副反応の可能性などについて理解した上で接種希望の有無をご確認ください。

季節性インフルエンザについて

急性呼吸器感染症で、発熱、悪寒、頭痛、筋肉痛などの全身症状が突然あらわれます。潜伏期は24～72時間です。呼吸器症状は遅れて出現することが多く、鼻閉、咽頭痛、せきなどです。合併症がなければ2～7日で治癒します。合併症、特に肺炎や脳症を併発した場合は重篤となります。（「予防接種と子どもの健康」より）

インフルエンザワクチンとは

インフルエンザワクチンには①インフルエンザHAワクチン：不活化ワクチン（注射）と②経鼻弱毒生インフルエンザワクチン：生ワクチン（鼻に噴霧）の2種類があります。

* 経鼻弱毒生インフルエンザワクチンについて

日本小児科学会は、経鼻弱毒生インフルエンザワクチンは、経鼻接種ワクチンであることから、より重度の喘息を有する者又は喘鳴の症状を呈する者における接種に関して、さらに飛沫又は接触によりワクチンウイルスの水平伝播※の可能性があるため、授乳婦、周囲に免疫不全患者がいる場合は不活化インフルエンザ HA ワクチンの使用を推奨する、としています。 ※（水平伝播とは、人から人へと横に広がる感染のこと）

インフルエンザワクチンの有効性

乳幼児のインフルエンザワクチンの有効性に関しては、報告によって多少幅はありますが、6歳未満の小児を対象とした2015/16シーズンの研究では、発病防止に対するインフルエンザワクチンの有効率は60%と報告されており、インフルエンザの発病を予防することや、発病後の重症化や死亡を予防することに関しては一定の効果があるとされています。（厚生労働省ホームページ・インフルエンザワクチン（季節性）Q&A（Q1）から引用。）

インフルエンザワクチンの効果と副反応

インフルエンザHAワクチン：不活化ワクチン（注射）	予防接種により、インフルエンザ感染を予防したり、症状を軽くすることができます。また、インフルエンザによる合併症や死亡を予防することが期待されます。 一方、副反応は一般的に軽微です。注射部位が赤くなる、腫れる、硬くなる、熱をもつ、痛くなる、しびれることがあります。通常は2～3日で消失します。発熱、悪寒、頭痛、倦怠感、一過性の意識消失、めまい、リンパ節腫脹、嘔吐・嘔気、下痢、食欲減退、関節痛、筋肉痛なども起こることもあります。通常は2～3日で消失します。過敏症として、発しん、蕁麻疹、湿疹、紅斑、多形紅斑、かゆみなどもまれに起こります。 強い卵アレルギーのある方は、強い副反応を生じる可能性がありますので必ず医師に申し出てください。 非常にまれですが、次のような副反応が起こることがあります。①ショック、アナフィラキシー（蕁麻疹、呼吸困難、血管浮腫等）、②急性散在性脳脊髄炎（ADEM）（通常、接種後数日から2週間以内に発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害等）、③脳炎・脳症、脊髄炎、視神経炎、④ギランバレー症候群、⑤けいれん（熱性けいれんを含む）、⑥肝機能障害、黄疸、⑦喘息発作、⑧血小板減少性紫斑病、血小板減少、⑨血管炎、⑩間質性肺炎、⑪皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson症候群）、急性汎発性発疹性膿疱症、⑫ネフローゼ症候群。 ※①～⑫のような症状が認められたり、疑われた場合は、すぐに医師に申し出てください。
経鼻弱毒生インフルエンザワクチン：生ワクチン（経鼻）	インフルエンザウイルスを弱毒化した生ワクチンです。接種後に体の中で増えたワクチンウイルスに対する免疫ができ、インフルエンザウイルスの感染を予防します。 一方、副反応として、鼻閉・鼻漏、咳嗽、口腔咽頭痛、頭痛などがみられることがあります。また重い副反応としてショック、アナフィラキシー（蕁麻疹、呼吸困難、血管性浮腫など）や、海外ではバル麻痺を含む脳神経障害、脳炎、けいれん（熱性けいれんを含む）、ギラン・バレー症候群（手足に力がはいらない、しびれ、食べものが飲み込みにくい、呼吸が苦しいなど）、血管炎（発熱、頭痛、倦怠感、紫斑、紅斑など）などが報告されています。

健康被害救済制度について

任意の予防接種によって引き起こされた副反応により医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づく救済の対象となる場合があります。

予防接種を受けることができない人

共通	1. 明らかに発熱のある人(通常は37.5℃以上の人) 2. 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人 3. 過去に、インフルエンザワクチンの接種を受けてアナフィラキシー(通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のひどい蕁麻疹を伴う重いアレルギー反応)を起こしたことがある人 なお、他の医薬品投与を受けてアナフィラキシーを起こした人は、接種を受ける前に医師にその旨を伝えて判断を仰いでください 4. その他、医師が予防接種を受けることが不適当と判断した人
経鼻弱毒生インフルエンザワクチン:生ワクチン(経鼻)の場合	上記1～4に加えて 5. 明らかに免疫機能の異常のある疾患をお持ちの人、免疫抑制をきたす治療を受けている人 6. 経口または注射の副腎皮質ホルモン剤を使用している人 7. 妊娠していることが明らかな人

予防接種を受ける際に医師とよく相談しなければならない方

インフルエンザHAワクチン:不活化ワクチン(注射)	1. 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気などの人 2. 発育が遅く、医師、保健師の指導を受けている人 3. かぜなどのひきはじめと思われる人 4. 予防接種を受けたときに、2日以内に発熱、発しん、蕁麻疹などのアレルギーを疑う異常がみられた人 5. 薬の投与又は食事(鶏卵、鶏肉など)で皮膚に発しんが出たり、体に異常をきたしたことがある人 6. 今までにけいれんを起こしたことがある人 7. 過去に本人や近親者で検査によって免疫状態の異常を指摘されたことのある人 8. 妊娠の可能性のある人 9. 間質性肺炎、気管支喘息等の呼吸器系疾患のある人
経鼻弱毒生インフルエンザワクチン:生ワクチン(経鼻)の場合	1. ゼラチン含有製剤またはゼラチン含有の食品に対して、ショック、アナフィラキシー(蕁麻疹、呼吸困難、血管性浮腫など)などの過敏症を起こしたことがある人 2. 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患などの基礎疾患のある人 3. 過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性の発疹などのアレルギーを疑う症状がみられた人 4. 過去にけいれん(ひきつけ)を起こしたことがある人 5. 過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある人、または近親者に先天性免疫不全症の人がいる人 6. 重い喘息のある人または喘鳴の症状のある人 7. 薬の服用または食事(鶏卵・鶏肉、その他鶏由来のもの)で発疹が出たり、体に異常をきたしたことがある人 8. 発育が遅く、医師、保健師の指導を受けている人 9. 妊娠中または妊娠の可能性のある人(接種前1か月間避妊していない人) 10. サリチル酸系医薬品(アスピリンなど)、ジクロフェナクナトリウム、メフェナム酸を服用している人

予防接種を受けた後の注意

インフルエンザHAワクチン:不活化ワクチン(注射)	1. インフルエンザワクチンを受けた後の30分間は、急な副反応が起こることがあります。医療機関にいるなどして、様子を観察し、医師とすぐ連絡をとれるようにしておきましょう。 2. インフルエンザワクチン接種後、1週間は副反応の出現に注意しましょう。 3. 接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射部位をこすことはやめましょう。 4. 接種当日は接種部位を清潔に保ち、いつもどおりの生活をしましょう。激しい運動は避けましょう。 5. 万が一、高熱やけいれん等の異常な症状が出た場合は速やかに医師の診察を受けてください。
経鼻弱毒生インフルエンザワクチン:生ワクチン(経鼻)の場合	1. 接種後は、ショック、アナフィラキシー(蕁麻疹、呼吸困難、血管性浮腫など)が起こることがありますので、医師とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう。 2. 接種当日は過激な運動は避けてください。また、健康状態に十分注意し、体調の変化、高熱などの異常な症状を呈した場合には、すぐに医師の診察を受けてください。なお、接種当日の入浴は差し支えありません。 3. 妊娠が可能な人は、接種後2か月間は妊娠しないように注意しましょう。 4. 接種後1～2週間は乳児や重度の免疫不全の方との接触を可能な限り控えましょう。